

「こども」と「アート」の力で被災地・能登を元気に！ のと鉄道の終着駅に「あい」のツリー展示

アートを通して能登半島地震の被災地支援に取り組む任意団体「DEAR_to (ディアトゥ)」は、のと鉄道応援プロジェクトの第三弾として、被災地に子どもたちの愛を届ける「あい」のツリーを、クリスマスの時期に合わせて、12月8日から25日までの18日間、のと鉄道穴水駅に展示します。

プロジェクトでは、能登半島地震を経験した児童らが「あい」について考え、クラフト紙を使って形にした「あい」するともだち（ぬいぐるみ）をアーティストが高さ約4メートルのツリーにコラージュし、巨大なクリスマスツリーを作ります。

「あい」には、愛や助け合い、I（わたし）、アイコンタクトなど様々な意味があります。のと鉄道沿線の児童がアーティストや被災地以外の子どもたちと交流しながら、その「あい」について考えカタチにすることが震災の経験や故郷を見つめ直す機会になると考えています。そして、子どもたちがアート作品の制作・展示体験を通して、「誰かを元気にしたい」という前向きな気持ちになってもらえたら嬉しいです。

■「あい」のツリー 展示概要

期 間：2024年12月8日（日）～12月25日（水）

場 所：のと鉄道穴水駅（終着駅）・待合室

制 作：穴水町立穴水小学校2年生（21人）

金沢大学附属小学校2年生（88人）

キム・ソンヘ（シャンデリアアーティスト）

大きさ：高さ3m60cm、幅2m6cm



「DEAR_to」では、子どもたちの思いが溢れる「あい」のツリーが、のと鉄道を利用して被災地を訪れるボランティアや観光客らを温かく出迎えるとともに、能登で生き続ける方々が少しでも明るく元気な気持ちになってくれることを願っています。

「あい」のツリーが出来上がるまで

- ① 子どもたちが図工の授業で「あい」について話し合う
- ② 「あい」するともだち（ぬいぐるみ）の形を考える
- ③ 温かみのあるクラフト紙を使い「あい」するともだちを制作
- ④ 2つの小学校の児童が作品を紹介し合い、能登への「あい」を話し合う
- ⑤ 109体のともだちをアーティストが巨大ツリーにコラージュ



〈制作スケジュール〉

12/3(火) 穴水小学校

10:25～11:10 「あい」について考え、「あい」するともだち制作

13:30～14:15 金大附属小の児童と作品交流（オンライン）

※金大附属小の図工専科教員らが訪問し、キム・ソンへとともに指導

【注意】取材される場合は、3日(火)9:30までにご連絡下さい

12/7(土) のと鉄道穴水駅

11:00～ 待合室にツリー設置／キム・ソンヘが装飾開始

13:00～ 両校児童が対面（自由参加）／「あい」するともだち飾り付け

15:00頃 「あい」のツリー完成 全員で記念撮影



〈プロジェクトの狙い〉

- 被災地の子どもたちに多様な学びと創作の機会を提供し、能登への想いを深めてもらう
- 金沢の子どもたちに地震や能登への理解を促し、のと鉄道を利用するきっかけを創出する
- 子どもとアートのかでのと鉄道を利用する人や被災地の方々を明るく元気にする

キム・ソンヘ

シャンデリアアーティストとして、国内外の企業やブランドへの作品提供
空間ディスプレイ、プロダクトデザインを数多く手がける。石川県の子
どもたちと交流を続けており、能登半島地震を受けて被災地を支援する「DE
AR_to」プロジェクトを設立し、任意団体の理事長を務める。



■アート×被災地支援「DEAR_to」について

2024年1月1日の能登半島地震をきっかけに始動した全国のアーティストによる復興支援プロジェクト。ものづくり企業とのコラボによるチャリティグッズの制作・販売のほか、地震で大きな被害を受けたのと鉄道応援プロジェクトとして、子どもたちによるワークショップを開催して車両に展示するアート作品などを制作。今回のプロジェクトは、のと鉄道応援プロジェクトの第三弾。(URL : <https://dear-to.jp>)

本件に関するお問い合わせ先

DEAR_to 事務局（株式会社ホクビ内）【電話】076-261-8211【担当】金本

【URL】<https://dear-to.jp> 【E-mail】info@dear-to.jp